

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：向谷元町自治会

開催場所：向谷元町公会堂

開催日時：平成 28 年 3 月 16 日（水）19 時 00 分～21 時 03 分

参加者：自治会側【地域住民の方 34 人】

市側【染谷市長、三浦秘書政策課長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長】

内 容

① 伊藤向谷元町自治会長あいさつ

・今日は市長さんとお話をする、今までこういうトーク会議はなかったと思う。今度、市長さんが 68 自治会を回られて、自治会の方々の生の声を聴きたい。そういう思いで回っているということである。今年の 2 月に自治推進委員連絡会議が開催され、その席上、市長さんが言った言葉に、これは配布資料として各戸に回っていると思うが、市長さんが言われるには、「今年で 3 年目の春になった。これから、市長というよりも染谷市長としての色を出した市政をしていきたいと思います。」ということをおっしゃっていた。それから、「量から質、こういうものに特化した市政運営をしていきたい。」ということもおっしゃっていた。また、「市民の命を守る市政」、「各地で災害が起こっている。これはすなわち我々自治会員の命、これと引き換えになる可能性も十分にある。そのために市は、市民の命を守る市政を進めていきたい。」ということも言っておられた。「市政については場当たりのではだめです。20 年先、30 年先、そういう先を見据えた市政運営をしていきたい。」こういうふうなことをおっしゃっていた。今日、こういう市政報告、その後の車座トーク、これについても染谷市長の色を出した会議の開催というふうに考えている。せっかくの機会なので、それぞれの立場から市政に対する注文なり意見、提言をお話をしていただければ、それに基づいて市長がお応えをする。地域の資源、地域の環境、こういうものを打ち出した市政の運営をやらねばならない。また、市街地の活性化問題、これも重要であろうと考えている。そして、島田の将来の展望、これからまだまだ何十年、ここで島田で生活をする。そのためには、皆さんの将来展望をお聞かせいただければ、こういうふうに思う。また、行政に対する注文、提言、意見、こういうものをお聞かせいただければありがたいと思う。これは、私だけでなく、市若しくは市長さんの考えだろうと思うので、今日、1 時間半という時間だが有意義にディスカッションしていただければと思う。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・今宵、車座トークは 9 回目となる。68 自治会を巡る 9 回目でまだまだスタートしたばかり。しかしながら、これまで回った 8 つの自治会はそれぞれに抱えている課題も違うし、雰囲気も違う、そこに集まる方々のお話もずいぶんと特色のあるものだった。私は今日、この向谷元町の地域の特質、課題、皆さんの思い、こういったものをお聞かせいただきたいと思っている。

■市政運営について

・3年前の5月に市長に就任した。選挙戦を戦ったときには、「変えよう島田」ということを訴えた。これは、私はここの生まれではない。夫の仕事の関係でここに住みついた。ここで出会った人のご縁や、ここの街の持つ地域特性には素晴らしいものがある。こうした中で、この島田をものすごく好きになって、ここで受けたご恩をもし自分で返せるならという思い、それと、このまま続けていくと島田の将来はどうなってしまうんだろうという危機感、それから、新たな政治のかたちがこれからの時代必要だと。こんな思いで市長に立候補した。

・その時に、市長に就任して4つのことをお約束した。一つは「公平・公正で、市民の声が届く市政の実現」、二つ目は「市政の透明性を高めるための情報公開」、三つ目には、これからの時代において島田市が単独で生きられる時代ではないこと、人の往来も激しくなる中、政治課題も市単独ではなくて、志太3市、あるいは中部5市2町、県といった様々な形での広域の連携というものがあったなしで、しっかりと広域の行政を推進していく「広域行政の推進」、四つ目には「財政の健全化」を目指すことで、人口が減少してきて、少子高齢化がどんどん進んでいく、あと30年も経つと島田市も高齢化率が4割を超えていく、子どもは1割もない、働く人は人口の半分という時代になってくると、税収もだんだん減っていくのに、今までと同じやり方で行政運営をやっていたら、もたなくなる。そういう時代に、どういう市政運営をしていけばいいのかということ、自分自身が任期の4年の間に「思いっきりやれ。」と言ってくれた人もいたが、思いっきり自分の4年間をやっていて、これからの市長はいいのかというのが私の思いだった。

・10年先の島田のために、今、何を選ぶのかということがこれからの市長の役割だと思っている。そういう意味では、かなり堅実にやってきたつもりである。こうした時代に流れ、大きく変わってきているところを皆様に御理解をいただきたいと思っている。私は、この4つのお約束の上に、自分の役割があると思っている。

・一つには、今のような時代になってきた時に、新しい政治の形というものをつくっていかなくてはいけない。その新しい政治の形というのは、今まで行政にお願いしておけば何とかなるという時代ではなくなったときに、市民と行政が相対で向き合って、しっかりと行政の職員が現場に行って、(現場というのは市民の皆様としっかりと向き合うこと)、向き合って、そこにどんな課題があるのか、どういう解決方法があるのか、今、何がどう変わってきているのか、こういうことを具にしっかりと見て、それをしっかりと上げていくこと。担当の職員が行ったその報告が、しっかりと上に上がっていく中で、この地域にこれからやらなければいけない政策が当然見えてくる。それがしっかりと上がってきて組織が運営されていく、そして対市民として向き合って行政とともに作り上げていく街だと思っている。その時には、たぶん行政にお願いするばかりでは、できないことはいっぱいある。地域の皆様が地域の課題を解決するためにどうしたらいいかということを考え、かつまた、行政がそれに一緒にやることのできるかということだと思う。

・一つ例をあげると、湯日小学校、初倉の小さな小学校で全校児童で30人ちょっとくらいしかいない。複式学級をやっているところ。そういうところであっても、働くお母さんが増えて、小学校1年生が放課後児童クラブに行かなくてはならないということになった。一番近い小学校の初倉南小学校まで5.5kmある。歩いていかせるわけにもいかない。だからといって行政がタクシーで運ぶというわけにもいかない。地元の方に御相談したら、自治会長さんがまとめてくださって、いいよ、帰りはお母さんが迎えに行くんだろ。学校が終わって送るだけなら毎日ボランティアが自分の車で送っていくからという話をしてくれた。行政はそれに対して、車をお借りする代金、ガソリン代、ちょっとした人件費という金額をお支払いしている。このように、お互いがやれ

ることを合わせたら、色々なことができるのではないかと考えている。このように、地域の課題を解決するには、地域の皆様と行政がともに組んで、どうすればその課題を早く解決できるのか、市民の皆様への意に叶う解決ができるのかということを考えていかななくてはならない時代になった。

・私が市長に就任したのは3年前の5月だが、皆様御存知の森昌也先生、島田の名誉市民でおられて、島田を大きく大きく発展させた素晴らしい市長さん。森昌也さんは、昭和の28年というときに市長になられた。その時に、「市民の手による市民のための市政」を実現するということをおっしゃった。20年市長を務めて、お辞めになられる昭和48年、その時おっしゃったことは、「島田は小さな街だけど、ここに住む市民は国際人なんだ。自分はこの街を量的に発展させてきた。市民会館もできたし、市役所もできたし、大きな道路もできたし、紀文、ネスレ、クノールなどの企業誘致もできたけれども、本当にこの街に住む人の幸せは、量的な発展の上に質的な発展を遂げた街なんだということで、質的な発展とは何なんだということを考えてもらいたいというメッセージを残された。」

・私は、自分が市長になる前に、公開討論会があったが、森昌也さんの葬儀の日だった。そしてまた、森さんが市長になられてから60年目という節目に私は市長になった。60年前に森さんがおっしゃった「市民の手による市民のための市政」がこの60年の間に本当に実現できてきたのだろうか、と思ったときに、私は森先生の教えを受けながら、これからのまちづくりを「市民の手による市民のための市政」によって実現していきたい、という強い思いを持った。「市民の手による市民のための市政」というのは、今、私がここにお邪魔しているのも、その一環である。そういった（地域課題などを）聴きながら、その地域に行って肌で感じたこと、聴いたこと、身に沁みたとことを政策に活かすことだと思う。

・もう一つの私の役割だと思っていることは、弱い立場の人の生活を守ること。自分自身が市長になって、政治の役割って何だろうと思ったときに、「そこに住む人たちの命を守ること。」だと思っている。これが究極の役割。その命を守るために、医療も介護も子育ても福祉も教育も一生懸命やらなければならない。その一生懸命やらなければならない課題のためには、税収も増やさなければならない。稼ぐ街もつくっていかなければならない。一番最初が景気回復ではない。政治の本当の役割というのは、そこに暮らす人たちが安心してそこに暮らし続けられる街をつくること。そのために、稼ぐ必要も出てくるけれども、その順番を間違えてはいけないと思ったことと、今、現実にこの島田市の中をみると、年金だけを頼りに暮らしている方が増えてきている。御高齢で一人暮らしの方も年々増えてきている。未婚化、一生結婚しない人や離婚して一人で子どもを育てている方などの単身の世帯が増えてきているというのが、この街でも現実となっている。生涯に一度も結婚しない男性が15%を超えている。6～7人に一人は一生に一度も結婚しない。離婚する方も3組に1組が離婚するといわれている時代なので、片親で子育てをしている方も増えてきている。

・子どもを増やしたいと思っても、結婚する平均年齢が女性が29歳、男性が30歳という時代になった。女性が子どもを産むには40歳まで。3人産むのはなかなか難しい。本当なら25歳くらいで第1子を産んでいくのが3人産むにはちょうどいいが、今の日本社会は、大学出たらまずは結婚することよりも先に、社会人として一人前になれる、キャリアを積みというのが世の中の風潮となっている。国全体が働き方を変えたり、生き方を変えていかないと、早く結婚して子どもを早く産むという環境はなかなか難しいのかなと思う。

・そういう意味では、子どもの医療費や保育料を無料にするだとかは自治体ごとに競わせるのではなく、国がナショナルミニマムとしてやらなければいけない政策だと思っている。そこはしっかりと訴えながらやっている。

- ・こうした中で、弱い立場の人たちを、しっかりと安心して暮らせる街をつくっていくんだよということを一つの柱としてあげた。
- ・もう一つの柱は、ここに若い人たちに住んでもらうには、子育てしやすい環境をつくっていくということが、今、私にとって命題となっている。実は、待機児童が大変に増えていて、法律にのっとった待機児童は、今現在、この4月で27人。しかし、今、働きたい人も保育所に預けることができる。希望の場所に入れないとかを合わせるとおおよそ130人の方が保育所に入りたいということで待っている。これを平成29年度までに何とかしたいと思っていて、今、市の土地を提供して民間に保育所を建てていただきたいという話を2つ進めている。一つは向谷で。向谷の市営住宅のあったところ、たこ遊園のあるところ。あそこに、小さなお子さん、0、1、2歳、3歳児未満を預かる定員60人程度で上のお子さんがいれば、同時に預かるといった保育所を一つ。それから、六合地区も人口が増えてきている。そこも赤ちゃんを預かる同規模の保育所を建てていきたいと思っている。3歳以上のお子さんは、みんな保育所に入れている。希望が叶っている。問題は、0歳、育休明けの子どもを預ける、その場所がないということ。赤ちゃんは3人に1人保育師がつかなくてはならない決まりがあって、保育師が見つからないということもあって、保育所は0歳児、1歳児の定員を増やせないという現状もある。しかし、こういった課題を解決しながら、他の施策として島田は子育て支援をやっているのだから、まさに県内一の子育て支援の街になるように、これには力を入れながら、やってまいりたいと思っている。
- ・同時に仕事を創っていかないと若い人たちは住んでくれない。もちろんここに住んでよそに仕事に行くことも一つの選択肢だが、できればこの街の中に仕事を生み出したいということで、新東名島田金谷インターチェンジ周辺の大規模な工業用地、34haを工業用地にしたいということで、今、話を進めている。それとはちょっとずれた位置にはなるが、国道473号と新東名が交差するところに、にぎわい交流拠点をつくるということをして2月の末に記者発表した。これは、島田市が中心となって、JA大井川、NEXCO中日本、大井川鐵道の4者が連携してにぎわい交流拠点をつくらうということだが、島田市は新東名の下を、国から占用許可をいただいて、1,000台弱くらいの規模で、富士山静岡空港のような無料駐車場をつくりたいと思っている。そこに車を置いて、奥大井あるいは島田市内に人が回遊する流れをつくりたい。JAのほうは、農産品のマルシェ、魚のマルシェ、レストラン、物品販売、カフェ等をつくりたい。NEXCO中日本は、これまでも色々御協力をいただいているが、インターを一度出るが、元に戻っても、例えば名古屋から東京に行く時でも、降りたことにならないようなチケットのやり方だとか、そういったことで御協力をいただきたい。大井川鐵道には、できればそこに新駅をつくって、SLを見ながらお茶を飲むような場所をつくりたい。そこからSLに乗れるような基地にしていきたいという構想をこの前発表した。
- ・こういったことは、全てここに「にぎわい」「交流人口」を生んで、お金を落としてもらって、そこに職を創ることの一環として決めたことである。
- ・今、市民の生活を守るために、弱い人たちの政策に力を入れる、子育て支援や若い人たちに力を入れるという話をした。
- ・それと同時に、私は若い人を育てたいということは自分の使命だと思っている。今、この街を動かしているのは、60、70、80歳代の方々。この方々の経験や知識やこの街の成り立ち、こういったものを若い人たちに引き継いでもらって、若い人たちにまちづくりに関心を持ってもらいたい。地域に関心を持ってもらいたい。そういう若い人たちを増やしていかないと、島田のまちづくりは次に繋がっていかない。次に繋がる人材を育成していくことが、自分自身の使命だと思っている。こうしたことを頭に入れながら、市政の運営をしている。

■新病院の建設・医療制度改革への対応（地域医療の充実に向けて）について

・この前の日曜日に、病院の設計業者を選ぶプロポーザル（提案発表）の場をもった。一次審査で残った6社の全国の名だたる病院設計の業者の提案だった。1社あたり数百万をかけた提案を持ってきてくれた。その中で、最優秀の会社を審査委員が選んで、それを入札審査会にかけて、適切に選ばれているということを認めていただいて、今日の朝、その業者を発表させていただいた。いよいよ病院も設計段階に入ってくるというところ。新しい病院は445床、診療科目は今とほぼ同じ。ベッド数は少し減る。その減る部分は、療養病床と精神病床である。平成19年から精神科の入院患者は医師の数が足りなくて、入院患者を受け入れていない。これは今後も見通しが立たないということから、精神科の病床を減らした。もう一つは、療養型のベッド数を減らした。このことについては、議会からもずいぶん御質問をいただいた。島田は病院が一つしかないのに療養病床をなくすのかという質問。しかし市民病院の療養病床は、よそから療養のために入院してくる方はいない。長期で入院されている方は1～2人で、この方たちはこれからも引き続き入院してもらおう。これまでどんな使われ方をしているかという、次の病院が見つかるまでの退院調整の機能としてこの療養病床を使ってきた。これからも、次のところが決まるまでは、一般病床の中で診ていくことにする。

・なぜ療養病床を削ったのかという理由の一つに、国の医療費は毎年1兆円ずつ増えてきている。これでは国の財政はもたない。国も1,100兆円の借金があって、公共事業の補助金、交付金は平成10年代の3分の1くらいまで金額を減らされて、県も同じように減らされて、公共事業が圧縮されていくような時代にあって、これからまだまだ医療費や介護や子育てにお金がかかるようになってきた時に、医療費を減らすことを打ち出している。その削減のために、2025年という、団塊の世代の人たちが全員後期高齢者になる年、この2025年を目指して、大きな医療制度改革を実は既にはじめている。

・その医療制度改革というのは、施設から在宅へ、病院から在宅へという流れ。これまでよりも入院日数を短く、施設に入っても負担が増えていく状況の中で、できるだけ在宅で医療を受けてもらって、悪くなったら病院に入ってもらおうといった流れ。

・今、市民病院は患者さん7人に対して看護師が1人という、7：1ということになっている。ところがこれからは、病床ごとに7：1をみていきますよという国の方針が出ている。療養病床は7：1にはならず、14：1とか15：1という対応になる。厚生労働省は、ここの病院は急性期の病院だね、ここは慢性期の病院、ここは療養の病院というふうに病院まるごと機能を分けていこうという方針を今もっている。現実には、これは難しいと思っている。今は、病院の中で患者さんが病棟を移って入院を続けている。厚生労働省の案は患者さんを急性期を抜けたら慢性期の病院に移るというモデルを持っている。しかし、御高齢の患者さんは、悪いところは一つではない。心臓が悪くても、整形外科にもかかっているし、胃腸も悪いなど、いろんなところにかかっている。まるごと移すというわけにはいかないだろうと私は思っているので、まだまだ見直しはされていくとは思いますが、内容は今、そういう状況になっている。

・そうした中で、島田はこの4月から在宅医療にシフトした「24時間訪問看護ステーション」をはじめ。これまで、健康づくり課でやっている訪問看護と病院でやっている訪問看護、夕方5時までだった。これを両方あわせて、一体にして病院の北側に健診センターがあるが、その3階に「24時間訪問看護ステーション」の事務所を置いて、8人の看護師体制で、医師の指示書を持って24時間いつでも、医師の指示書どおりの医療を施すということをするといった体制をこの4月から私は始めることにした。これも、在宅医療に向けて、市民の皆様安心して暮していただけるような一つの手段だと思って、今

はじめているところ。

・市民病院をしっかりとつくっていくことと同時に、地域医療をどうしていくかという大きな課題がある。24時間訪問看護を始めたその裏には、開院されている診療所の先生方、この高齢化の問題も待ったなしである。島田の市内で開業されている先生方、往診に来てくださる先生方でも5年経ったら何人残ってくださるか分からないくらい高齢化していて、息子さんや娘さんはお医者さんなんだけれども、戻ってきてくれないのが現状となっている。そういったこともあって、24時間訪問看護ステーションを始めたと同時に、若い先生方に島田に開院をしてもらう、そういう政策をこれから打っていく必要があると思っている。そういう意味では、医師会との意思の疎通や連携をしっかりとやってまいりたいと思っている。

・皆様から御心配をいただいていることとして、市民病院の地盤のことがある。街中移転を取りやめ、私が市長になってから、候補地を選定する中で、残ったのが、今の場所で建てかえる計画である。今の病院の駐車場の部分で、道を付け替えて建てることにした。そのことに対して、大地震の時にはどうなってしまうのかという御質問もたくさんいただいている。これまでに35本もボーリング調査をしてきている。そして28年度もボーリング調査をする予定。このボーリング調査で分かってきたことは、支持地盤とあって、岩盤までの距離があるということで30mくらいある。だけれども30mの上の10mくらいまでは、大井川の砂利層がしっかりと固く、ここの地盤はしっかりとしている。上の20m、20mは粘土質となっている。皆様、液状化の心配をされているが、液状化はしない。県の想定でもそうになっている。私もボーリング調査で採取した土壌を見たが、粘土の中に砂の粒が混じっている。地盤は岩盤までは距離はあるが、砂と水が混ざって液状化は起こるので、あそこの土地は液状化はしない。しっかりと地盤を固め、杭を打って病院を建てれば大丈夫。

・病院へ繋がるまでの道路は大丈夫なのかという質問もよく受ける。国1バイパスは最高基準で造られている国道。病院に繋がる市街地から北に延びる道路（県道伊久美元島田線）は、災害時には一番先に、倒れているものがあればそれを除去し、段差があればそれを埋めるということが第一に決まっているところである。あの道路が救急車も通れなくなるということは想定をしていない。多少の亀裂が入ったとしても病院までは行けるという想定でいる。また、新しい病院は、屋上にヘリポートもつくっていく。様々な形で、災害時における指定病院としての機能をしっかりと果たせる、そういう病院をつくってきたいと思っているので、是非、信頼をいただけるようお願いしたい。開院は平成32年度の予定となっている。これから、しっかりとした病院をつくって、最新の医療機器を備えて市民の皆様の信頼に応えたいと思っている。

市民会館と市役所の建替えについて

・市民会館は島田市民の誇りであった。県内で1、2を争うほど早く建てられ、規模も大きく、音響も良かった。大勢の芸能人が来てくれたし、観光バスが連なっていていつも止まっていて、島田に市民会館があることは私たちの誇りだった。ところが耐震性が無いということで、もしもの地震が起こったときに中に人がいた場合に、大変危険ということが分かって使用を中止にしていた。それを2年置いたため、市民の皆様から、市長は決意をしろと。取り壊すなら取り壊せ。つくるならつくれと。方針を示せとも言われた。決して意志薄弱だったわけではなく、私の頭の中にあったのは、市役所の庁舎が築53年だということ。私の市長室も雨漏りはしないが雨漏りの跡だらけとなっている。合併を重ねて職員が入りきらないほど狭い。この市役所を建て替えるなら、市民会館の場所しかないと思っていた。今、国の制度というのは、まだ古い体質を残していて、国も壊してそこに新しいものを造るのであれば補助金や交付

金を出す。しかし、壊すだけだと補助金は出ない。これからの時代は、壊すだけでも補助金を出さないとダメだと思うが、まだ国の体制は次々に造られていく時代の体制のままで、壊すだけでは補助金が出ないという中で、市役所をどうするかという方針を出す必要があるということが私の頭の中にあった。私が昨年、決断したことは、これからの島田は病院にもお金がかかる、それだけではなくて、次々と公共施設も老朽化する。市の将来のために投資をしなければならない事業がある。そうした中においては、うちの市役所はもう暫く、耐震性はしっかりしているので、使い続けるという方針を出した。この方針を出したので、この春、市民会館を壊す決断をした。昨年の11月の補正で解体の設計費用を出ささせていただいて、当初予算で解体の費用を出している。約2億円かかる。市民会館を取り壊して、暫くの間は、広い駐車場とイベント広場、災害時の避難場所として使えるようにしたい。

・一方で17,000人ほどの署名を集めて、市民会館を建て直してほしいと要望活動にお見えになった方々の思いもある。私は今度市役所を建て直すときには、複合施設として市民会館を建て直すかどうか、その時にまた市民の皆様とお話をすればいいと思っている。今、市内には600を超える規模のホールがおおろりと夢づくりとチャリム21と3つある。これもそれぞれ老朽化していくが、当面の間はこの3つの施設を使う。そしてそこには入れない、オーケストラが乗るようなステージを使うような場合には、広域で使わせていただくという中で、焼津の市民文化会館を使うときに、1回50万円市が補助を出すということにさせていただいている。商業高校とか色々、市民会館を使って色々やってきたけれども、よそに行かなければならなくなった時に、1回50万円という補助金を出しながら、それをお願いしている。このように、これからの公共施設のあり方について皆様にも考えていただくようなときが来た。合併を重ねて、ものによっては3倍持っているものもある中で、この維持管理にこれから40年で1,600億円を超える維持管理費が必要という試算が出ている。これを減らすためには、公共施設の再配置もしていかななくてはならないということもこれからの課題となってきている。

蓬莱橋周辺整備について

・今日、ここに来る前に、蓬莱橋のライトアップの試験点灯を確認してきた。今日の試験は、蓬莱橋を島田市緑茶化計画というシティプロモーションの中で、島田の色を緑茶グリーンと決めたので、蓬莱橋をグリーンに染め上げてライトアップする実験をしていた。金谷の茶まつりの頃に合わせて、蓬莱橋を1週間から10日間くらいライトアップする予定でいるが、その蓬莱橋の周辺に、お休み処や物品販売所がないということで、これまで色々とお話をいただいていた。国土交通省の河川敷なので占用許可がいるなかなか河川敷に物を建てさせてもらえなかった。今ある番小屋も水防小屋という許可をいただいて建っている。しかし、規制緩和も進んできて、私どもも国土交通省にお願いする中で、お休み処と物品販売所を建設できる目途がたった。平成28年度は当初から協議会を立ち上げ、早ければ28年度の末、そうでなくても29年度から蓬莱橋のところに、お休み処や物品販売所を造れるというふうに考えている。

産業支援センターの整備について

・島信さんの向かい側に島田代弁があったが、そこを整備して、島田市産業支援センターというものをつくっていきたいと思っている。これは、地元の産業を、一つひとつの地場産業を、体力をつけて、一社一人ずつでも従業員が増えていく、そういう企業にしていくための、様々な国の補助金、市の補助金、県の補助金、こういったサポートや創業支援、起業支援もそうだが、これまでは土建屋だったけれども、新たな商売に乗り出したいという、副業をやって

いくような支援、地域コミュニティの方々が、何かしらのNPOが企業化していくような支援、こういったものを、島信と島田市と商工会議所と商工会の4つが連携して、島田市と島信から正規職員を出し、民間からセンター長を雇い、市が嘱託でパソコンなどの得意な人を雇い、そういった体制をつくりながら、商工会議所、商工会からも随時人を出していただくような体制の中で、まず、島田の産業の底力をつけていきたいということで、この産業支援センターは、この4月中旬にオープンしたいと思っているが、こういったことも新たに始めたいと思っている。これは、私が市長になった時の公約で、やっとこさ、それが実現できるところまで来た。

・市民の皆様は、市長になったらあれやれ、これやれ、すぐやれると思っただけかもしれないが、現実には、予算というものは、今思ったものは来年の4月以降という時間がかかること、また様々な計画の中でやっているのだから、民間のように社長が思い立ったらすぐできるというものでもない。しかし、この正月に、職員に向かって言ったことは、これまでは補正予算というのは、災害が起こって早急に対応しなければならない場合の予算であるとか、予想だにできなかったことにお金がかかるものにお金を出すのが補正だった。今年からは、通常の事業であっても、スピード感を持って実現していくためには、補正でも予算は上げるということ、正月の年頭の訓示の中で職員に話しをした。議会にもその話はした。議会には御協力をいただかなくてはいけないが、そこは分かっていたかかないと、行政はスピードが大事になってくる。間髪をいれずに施策をうっていかないと間に合わないことが出てくる時代となっている。そうした時代のまさに分岐点、流れが変わるそういう時代になった市長としてこれからも頑張りたいと思っている。

浜岡原子力発電所について

・島田市はUPZといって、浜岡原子力発電所から31km圏内というところにある。市役所が原発から直線23kmくらいなので20数kmあると思う。地元4市は、既に立地4市が中部電力、静岡県と安全協定を締結している。しかし、それ以外の7市町は中部電力と安全協定が結べていない。今、安全協定を7市町が中部電力と結ぶための交渉を県と一緒にやっている。今、再稼動を認めるかということについて聞かれるが、市長の使命は、市民の命を守ることだと先ほどお話しした。今の状況で再稼動して、市民全員を安全に避難させる方法、地震と原発事故が一緒に起こる災害の場合の避難計画が、これで万全かということ。避難計画ができて、例えばバスで逃げるといっても、バスが本当に手当てできるのかということも難しい課題であり、そういうことを考えると、今、住民の安全が確保されているとはいえない状況の中において、再稼動を認めることはできないと、これは一貫して議会でも答弁させていただいている。中長期的には廃炉すべきということを思っているが、新たな技術革新、再生可能エネルギーものびてきているので、今、電力不足にはなっていないので、再稼動は認めないという方針はこれからも、状況が変わらない限り訴え続けていきたいと考えている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■大変御苦労なさって新しい島田を創っていただけるということで3年が経過し、この場でも考えをお話いただいて心強い。市長はうまくいって元々である。ちょっとおかしいことがあるとすぐに批判する人がいる。女性市長であるがゆえにできること。男性市長にはできないこと。女性としての感性。市長にはお願いがあって、女性市長だからできることを、今、市政の中で是非取り入れていただきたい。</p> <p>①管理職（部長クラス）に女性を登用していく。来年度に間に合わなければ育成していく。島田市には（男尊女卑の）古いしきたりがあって、先ほど市長が言われた30年、40年先を見据えたら、女性が力をつけていくことが大事。</p> <p>②町内会長を含めて、自治会の中で、地域組織の中での女性の登用。今はほとんどが男性。副と名のつく方も男性。長は男性であっても、副の一人は女性を登用して、女性の立場でものを見ていただいて、この自治会の運営をしていくというのもひとつなのかなと。</p> <p>③もう少し噛み砕くと、衛生委員という役職があるが、この衛生委員も男性となっている。家庭の生活のゴミは、おおよそ女性が出す。今、焼却場を維持していくためには、以下に燃料効率を高めるか。この中に水分が多くなれば燃料効率が悪くなる。運営経費もかかる。衛生委員が2人いたら、一人は女性を登用して、その女性であるがゆえに、市と委員が懇談をして若しくは協議をして、一つの方針を出して、女性の立場でゴミの削減や生ゴミの水分を切るなどを推進していく、このようなことをお願いしたい。</p>	<p>●今全国に1,700の自治体があって、うち市というのは政令都市も含めて813ある。この813の中で、女性市長は17人しかいない。全体の2%となっている。私は女性も男性も関係なしに、その人柄や実力や能力が認められた時、それで選ばれて女性だったとなれば一番だと思っている。そういう社会になる今、過渡期だと思っている。</p> <p>①女性の管理職を出したいというのは私もそう思っている。ところがいきなりは管理職にはなれない。育ててこなければ、企画部門や総務部門や、そういうところに女性を置いて、しっかり鍛えてこないと、いくら私が女性の管理職を出したいと思っても、そういう人材にはならない。私は能力主義で選びたい。その能力主義で選んだときに、そこに女性がたくさん入ってきたら、こんなにうれしいことはない。しかしそうなるまでに、今、育てなければならぬ。私のすぐ横の市長戦略部の企画の部門にまだ20代の女性職員もいる。こういう若い女性たちを、そういう場所において、しっかり鍛えていく。ちょっと時間はかかる。しかし、確実にそういう時代にはなると思う。安倍総理は女性の登用を30%にすると言っている。女性が輝く社会と言っているが、いきなりは無理。これまでそうやって育ててこなかったから。そういう土壌をしっかりとつくっていくことだと思っている。</p> <p>②自治会での女性の登用は、是非ともお願いしたい。今年（28年度）、自治会に2人以上、会長または副会長に登用してもらおうと、その自治会に10万円の補助金を交付する取り組みをはじめ。こういうものも活用していただいて、いろんな人の目が入って、私は立体に物が見えるようになると思う。男性も女性も目と同じ。片目だけで見ていたら立体に物が見えていない。両方の目があるはじめて、物事は立体に物が見えると思っている。なので、男性の目も女性の目も必要という意味で、自治会にも女性の方たちがたくさん出てほしいと思う。</p> <p>③衛生委員も現実にゴミを出している女性の立場だからこそ、わかること、そこで水を絞れば、絞っただけでゴミは減量されるし、焼却のコストも下がる。現場の課題を解決するためには、女性の視点が重要になるし、この衛生委員に生きるかもしれない。こういった、それぞれの役割に女性の目を活かしてほしいなと思っている。</p> <p>●島田は私が市長になってから女性議会を開催している。7月30日の、島田の男女共同参画の日にあわせてやっているが、議場を使って、だいたい8人～10人の一般の市民の女性の方に議員になっていただいて、それぞれの皆さんが日</p>

		<p>ごろ生活の中で感じている不便だとか、問題だと思うことやらを訴えてもらう。我々もフルキャストで、議長にも御協力いただいて議会さながらにやっている。これは女性の方の生活者としての視点から御意見をいただくということが一つある。でももう一つは、市政に関心を持ってもらうという大きな役割がある。そして3つ目には、女性の市議が、私が本物の市議会議員になってみようという人が出てきてくれたらうれしい、という思いをもって、今、女性議会を続けている。</p>
1-1	<p>■私の家の前がゴミステーションで、すごく汚いので、女性の方の御協力も必要かと思っている。</p>	<p>●回答なし。</p>
2	<p>■選ばれた側と選ぶ側と2つ経験している。そういった中で、例えば選ばれた段階の中で、女性の登用というのはずっと思っていた。しかし、すごく難しい。こうした中で、選ぶ側になった時にはもっと難しいかなと思っている。理想としては非常に必要だと思うが、それでもやっぱり出したいけど出てもらえないというのが現実の姿となっている。私は頭（長）でもいいと思っている。男女共同参画などの時代背景で、町内会でもあるべき姿だとわかっている。我々の選考はたぶん10月頃から選んで、3月までが限度なのだが、5ヶ月だがその中でも決まらないという現実がある。選ばれる方が1名ないし2名となっている。例えば副であったり、●●委員であったり。皆さんの目を気にしているというところがまだある。そういった中で、なかなか難しいというところがある。</p>	<p>●日本には「女だてらに女のくせに」という言葉があつて、島田の女性の皆さんは奥ゆかしい。男の人をたてる。表向きは男性がたつが、現実に仕切っているのは女性の皆さんだと島田の街を見て私は思っている。皆さん上手に男性をたてて、自分を表に出ることは控えめにしている。それは、たぶん人の目があるとか、人に色々言われる立場はちょっとという思いがあるからだと思う。しかし、これからは女性の方たちにも、そういうことを気にせずに行ってもらいたい。世の中が変わっていくから。私自身は市長になってみて、こんなに男社会だとは思わなかった。どこに行っても男性ばかりで、何百人いても男性ばかりで、女性は私と巫女さんくらいのもの。竣工式とか起工式のときに行くと巫女さんがいる。ほとんどのところがそういう状況である。いかに男に人たちが日本の社会を創っているかということをも身に沁みて感じている。だけれども、そこに女性の人たちの視点がしっかり入っていかないと、さっき言った両目で見る社会にならない。やっぱり気づきが違う。それぞれが気づいたことを補い合いながら、政策というものをつくっていくべきなんだろうと思う。</p>
3	<p>■向谷元町の避難場所は島田樟誠高校になっている。ここは島田市で唯一私学の学校で、例えば、伊太小、一中、一小などの公立学校であれば、その電気代、ガス代などを多少使っても、公立学校なので我々の税金を使っているということでもいいが、私学となると、我々が避難して、費用がかかったものは、一体どうなるんだろうという疑問がある。</p> <p>■実際、樟誠高校に行って向こうの職員と話をしたときに、樟誠高校の職員が、「うちのところはあくまでも一時的にとりあえず避難するところだと考えている。」という趣旨のことを言った。もちろん避難した人を無下に、今日が期限だから帰れとはしないけれども、市の方からは、近い将来、できるだけ一中とかにもって行くという感じを向こうは捉えている。僕たちは</p>	<p>●向谷元町の避難場所が樟誠高校になっているということで、電気代や水道代などはどうなるのかということだが、これを地元で負担していただくことはない。樟誠高校からたぶん行政の方に請求書が来ると思う。避難場所の電気代や水道代が皆様の負担になることは考えていない。皆さんに知っておいていただきたいのは、避難場所に逃げるという時は、自分の家が壊れて住めない人。余震でもってわが家が倒れてしまう可能性があり危険な人。この人だけ。皆さんは自分の家で暮らし続ける努力をしてもらわなくてはいけない。それがまず最初。そのために我が家に備蓄し、我が家を耐震化し、我が家の窓ガラスが割れないようにフィルムを貼り、家具を固定してもらいたい。避難所に逃げればよいと思うかもしれないが、避難所は生活の苦しい大変な場所である。私も3.11のあと、避難所をまわったこともあるが、とても眠れるような場所ではない。底冷えして、夜中も騒ぐ声や話す声や音がして、我が家に勝るものはない。災</p>

そこに逃げれば良いと思っっているが、そこが？マークということである。

●向谷元町は、国道1号バイパスがあり、全部で4か所に架橋が架かっている。もちろん補強工事もしているので、これがダメになってしまうことは考えられないが、想定外ということもありうる。もしここが分断されてしまうと、元町は2つに別れてしまう。北側の人は樟誠高校に逃げれば良いが、南側の人たちはどうすれば良いのいかなど。そこで、元町に近いところに2つ公共施設がある。一つは警察署、もう一つは斎場。斎場は山の上になるので、災害が起こったときにどうなるかと思うが、警察署は想定外のことが起こったときに使わせてもらえるのか。もしできないのなら、できるようにしていただければありがたいと思う。

害時も我が家で暮らせる態勢というものを皆さんにお願いしている。体育館は想定して大体200人。あそこで寝泊まりができる人数は。みんなが避難したらとてもじゃないけど入れない。家が壊れて住めないとか、これではどうしようもないという人だけが避難する場所だということをもっと知っておいてほしい。

■バイパスに4つの橋が架かっているということだが、島田市には1154本の橋が架かっている。島田市が管理している橋。5年に一度全部点検をしなければいけないという法律の改正があって、1年に230箇所点検してもまだ余るというほど。市道は全部で1,138km。これも5年に1度点検をしなければいけないということで、今、新しく作るよりもメンテナンスして、長寿命化して50年のものを70年、80年もつようにして使えという時代になってから、そういうものに行政はすごくお金がかかるし手間もかかる、そういう時代になった。バイパスに架かる4橋が、落ちるかという話だが、5年に一度点検をしている。耐震性の問題や危ない箇所があればすぐに補修をするということで長寿命化をしているので橋が丸ごと落ちるとするのはマグニチュード9.0、震度7といった最強に地震が来ない限りそういうことにはならないと思っている。ここの被害想定は震度6弱。揺れよりももっと危ないと思っているは、二次的に発生する火災。この火災が延焼をして我が家に住めなくなってしまう可能性がある。地区内から火災を出さないということがこの地域では大事なことだと思っている。

■警察署と斎場への避難については、まず警察署は無理。警察署はこういった災害時には拠点になる場所であるので、そこを市民に開放するという事は難しい。ただ斎場はそういう事態において、斎場として使えるかという課題もあるので、一時的な避難場所としては逃げていただいてもいいと思う。

■地震の時の大規模災害の時の避難場所と、ゲリラ豪雨だとか水害における避難場所は違う。水害やゲリラ豪雨の時は、予報が出るので、本当に大雨で危ないと思ったら、低いところに住んでいる人たちは公民館のようなところに先に避難してほしい。一昨年の台風18号、19号の時に避難勧告を出したが、避難勧告を出す前に、3時間前に市長は判断しなければならない。その3時間の間に、39ある避難所に人を派遣して、開設して人を受け入れられる態勢を整えなければならない。今危なくなったら避難勧告を出せということとはできない。早い段階から判断をして避難所を開設するが、水害の場合には避難して来る方は数人となることが多いので、体育館の床に寝ていただくより、こういった公民館の冷暖房の効くところで座布団でもなんでも下に敷くものがあるところで、お茶が飲めるところで、テレビが見られるところで避難をしていただいた方が情報も入ってくる。是非、大規模災害と水害時は違う。そして豪雨も降っていると

		<p>きだったらもう逃げない。2階のある方は2階へ、がけよりも遠い部屋にいていただくというのが基本なので、そういったことを皆さんで共有していただきたい。島田は専門監として、防災監を置いている。眞鍋とという自衛隊から来たものが大変危機管理に詳しい専門家なので、各地域のご希望があれば、いつでも来て、この地域の災害特性、この地域に皆様の安心を支えるためのお話をさせていただいているので、是非、眞鍋を一度呼んで話を聞いていただけたらと思う。</p>
4-1	<p>■バイパスののり面に北側に住んでいるので、バイパスののり面をいつも見ているが、何年か前までは、年に数回、のり面の草を刈ってくれていた。しかし、最近道から1.5～2.0mのほんのすそ刈りだけで、上の方は伸び放題となっている。ある方がこんな時に火をつけられたら燃えちゃうんだぞ。消防署はこういうのを嫌うんだ。という話を耳にした。こののり面の草刈りというのは、どこが管轄しているのか、なぜすそしか刈らなくなったのか、すそしか刈らなくなったことによって、大きな木が生えてしまう。それを切るためには労力が必要になると思う。前のように、早め早めにきれいにしていけば、そういう状態にならないで済むということを感じている。</p>	<p>●まさに生活者の視点でお話を伺った。国一バイパスは国の管理で、浜松河川国道事務所が管理している。その事務所もだんだんと予算が減ってきて、全部刈れない状況になっているのだと思う。実は市内を流れる、大津谷川や伊太谷川なども土砂がたまって浚渫しないと流れないという要望をいただいているが、こういった管理は県になるので、県の土木事務所に言うが、浚渫する予算がないと言われてしまう。よほどのことになったところしか今はできていないという状況で、バイパスののり面の件は、私から一度、こう言った市民の声がありますということ伝えておく。</p>
4-2	<p>■のり面の刈り方も、前は3人くらいで段差を付けて刈っていたが、今は刈っている人よりも、その跳ね返りを防御する人、実際に刈っている方の人数よりも、それを防ごうとする人の方が多い。</p>	<p>●そのことも含めて話をしておく。だんだん高齢化してきて、昔は地域で草刈りから何やらできたんだけど、それもできなくなって誰がやってくれるんだという話が地域によっては聞こえる時代になった。本当に難しくなったなあと思う。</p> <p>●余談ではあるが、もうすぐ川ざらいを実施するが、これも高齢化してきて、団地のようにみんなが高齢化していくような地域では、ケガするのが危なくて、あるいはうちは人が出せないというところも出てきて、みんなが川ざらいができるのか、働き方も変わってきて、土日働いている方、夜勤の方、色々いるので、昔のようにみんな日曜日の朝出てくれるという時代ではなくなった。こういった時代の川ざらいのやり方、地域清掃はどうあればいいのだろうということ私を課題としてずっと持っている。是非皆さんの中でもそういったことが出てくれば、お話を聞かせていただければと思っている。市は保険をかけているし、全面的に協力してやっていただいているし、それはありがたい限りだが、時代の流れの中で、変わっていくものもあるので、そういったことも我々は話をしていかなくはないと思っている。</p>
5	<p>■下水道について、向島あたりまできているが、前市長の時に聞いた話では、山浴いに近いところについては、下水道ではな</p>	<p>●島田の下水道の整備率は県内でも一番低い。この理由は、ある時期に政策的に、目に見えないインフラに投資をするよりも、ほかのことに投資をしようと</p>

	<p>くて、合併処理浄化槽で考えているという話を聞いたことがある。今は市としてどういう考えでいるのかを聞きたい。</p>	<p>決めたことだと思う。今、国は下水道の40年前、50年前に下水道を引いたところの更なる更新には補助金を出す、新設の下水道の整備には補助金を出すような時代ではなくなってきている。島田の下水道の処理施設が河川敷のところにあるが、今、1棟しか建ってないが、本来、5棟くらい建つような計画の敷地をもっている。それが1棟しか建たないというのは、政策的にある時点で、公共下水道は中心市街地のある一部のところ、あとは合併処理浄化槽で、ということを経営的に決めたんだと、私は思っていてそれを引き継いでいる。街の中も区画整理されたところに公共下水道を引けばいいが、道が入り組んでいるところに下水道を引いてしまうと、大規模な企画整理ができなくなる。そういう課題もあり、その時代にやらなくてはならないことというのがあって、時代を逃すとできなくなってしまふということがある。</p> <p>●例えば、他でお話するならば、六合の駅南は、平成の6、7年頃、区画整理の計画があって、面的に整備しようという計画があって、大きな道路ができるということは、減歩とあって、自分の土地を何割か提供をしなければいけない。2割から3割。しかし、全体の敷地面積が狭いと、2割とられても困るという方も多くて、結局その時代は市が推進しようと思ったけれども、地元の方の反対もあって、区画整理はできなかった。今になって、人口が増えてきて、消防車も入れない道でどうするんだと。区画整理をしろと言われても、今度は、あんなに家が建て込んだところに行けば面的な整備はもう難しい。今は幹線道路をしっかりと造って、その幹線道路につながる枝線をしっかりと造って暮らしやすいまちづくりをしていくしかないということを私の方針として持っている。その時代ごとに、そこでしかやれないことがやっぱりあるのかなあと私は思っている。</p> <p>●合併処理浄化槽は悪いことばかりではない。災害時においてはいち早く復旧できる。公共下水道は復旧までに時間がかかることになる。</p>
6-1	<p>■市長さんのお話を聞いていて、子育て支援に力を入れているということで、これからの子どもたちでするので大事な事業だと思う。しかし、後期高齢者にも目を向けていただきたいと思う。今まで、高齢者はコミュニティバス（回数券）を格安で買うことができた。どこに行くにも、市内ならどこへでもその券で行っていた。最近になったら、いきいきクラブで買った券では、病院へ行ってはいけません。温泉に行ってもはいけません。そういうところに行くなら売れません。後期高齢者になると、車には乗りたくないし、夜とか夕方、ちょっと暗くなった時でも、このごろ事故が多いので車は乗りたくないから、温泉に行くに</p>	<p>●おっしゃるとおりだと思う。4月からコミバスは少し値上げをさせていただく。200円になる。200円になるけれども、子どもたちには今までどおりということで、一般的には子ども料金は小学生以下なのだが、高校生以下を子ども料金とした。18歳以下は100円なのだが、大人の方は200円ということで、高齢者の方にはお出かけをたくさんしていただきたいので、今、試算をさせていることがあって、免許証を返上してもコミバスを使っていたらいいような、支援をしていきたいということで、はじめて外向けに言うことなので、その検討を始めているところ。何らかの形で支援をしていきたい。</p>

	<p>も、こんなにいい温泉があるから、そのバス券を使って行きたいのに、その券を使うなら売りません。その券が使えるのは、楽習センターとなごみの里しか行けない。せつかく高齢者に優しい制度をつくっても、その券が十分に使えないことがちょっと、もう少しやさしくしていただければと思う。</p>	
6-2	<p>■後期高齢者の方がその券を買って、それを子どもくるとか、お孫さんにくれるとか、本人が使わないでバス券を他の人が使う、入学式のお祝いに使うということを聞いて、ちょっとびっくりしている。温泉も後期高齢者ということでちょっと割引がきくが、それは後期高齢者という印字がされているので他の人は使えない。いきいきクラブはそういった印字がされていないので、買っちゃえば誰でも使えるようになってしまう。後期高齢者だよとはっきり分かるような券にしてほしい。2人で温泉に行くと、8枚いる。11枚綴りなのですぐなくなってしまう。お宅の会はたくさん使いすぎますと言われる。</p>	<p>●一つお詫びしなければいけないのは、うちの職員が言葉が足りずにすみません。いつも言っているが、言葉はクッション。やっぱり、お待たせしました、申し訳ありません、一言あるとないのとでは全然違うので、そのところが言葉が足らなかったのなら、申し訳ないと思う。きちっと指導していく。お孫さんやお子さんが使うのは不正。高齢者のみなさんに格安で、行きたいところにいけるような方策を考えていて、こういうところでお声を聞くというのは、今ある政策の狭間でどういうものが必要なかということを教えていただく場。そういう意味でも、皆さんの声は聞いていきたいと思う。以前、車座トークでこんなことがあった。コミバスが走っていない不便なところは、タクシーで病院にいきたいんだと。タクシーのチケットを片道1,000円でもいいから何とかみてくれないか。私も試算をさせて、片道1000円で往復2,000円。月に一回病院に行くとして1年間にいくらかかるか。75歳以上が昨年の9月時点で14,800人いる。今15,000人を超えている。年間で25,000円。そうすると5億円を超える。75歳以上の方全てにタクシー券を5億円かけても配布するのか。75歳未満でも体が弱くて病院に自分の力で行けない人もいる。元気な人もいる。そのタクシー券を他の人にも渡す人がいるかもしれない。そうすると本当に公平な皆さんへの支援はどういう形がいいのだろうかと思う。給食費でも同じ。給食費をタダにしてほしいという意見が議会等でも出ることがある。給食費は材料費しかもらっていない。人件費も光熱費も機械器具代も全て行政が払っている。材料費しかもらっていないけれども、この材料費は年間で4億円になる。この4億円をタダにするのだったら、どこかで4億円を浮かさないとならない。この4億円を高齢者のために使うのか、本当に必要とする教育や子育てにまわすのかということも思ったら、給食費は材料費だけでもいいから親御さんにみてもらいたいと思う。こういうことをしっかりコミュニケーションしていく街をつくっていききたいということ。話していけば、いろんなことが分かっていくというふうに思っている。</p>
7	<p>■先ほど下水の話が出たが、我々が子どもの頃は、竜泉院川で遊んだ。我々が生きている間にきれいになるのかどうかということを楽しみにしている。川越街道の先の大井川の河川敷にあるグラウンドゴルフ場について、あそこに行く途中の道がでこ</p>	<p>●河川敷に道路をつくることは占用許可が必要となり基準が厳しい。でこぼこの状態をまた見せてもらって、多少直せるものなのかどうかをみないといけない。島田は各自治会がグラウンドを持っているという点では、近隣の市にはないほど、非常に恵まれている。皆さんが手入れをしてくれているので、河川敷</p>

	<p>ぼこ道で、あれがなんとかならないか。土手から近くてなんともならないのなら、遠いところに道路をつくって舗装してもらいたい。グラウンドゴルフの県大会があるが、あんなにいいグラウンドがあって、土手から降りてきてでこぼこ道だとかっかりしてしまう。</p>	<p>もきれいに保ててありがたい限り。自分のグラウンドゴルフ場だと思っているものだから、人が使うのは困るということもあって、グラウンドゴルフ場も全ての自治会に一つと思っているのだが、ないところも一箇所くらいあるのか、しっかり考えなくてはならないと思っている。</p>
<p>8</p>	<p>■市長さんは市長になられてから伊太和里の湯に何回位入られたか。市民病院の件だが、当然、専門家が見て、地盤のことは検討されているとは思いますが、不動沈下という地質学上のものがあるが、工事を始めて、不動沈下のことが出てくると、基礎の点から大変なことが起きることが懸念される。一市民として大変心配なこと。浜岡の原子力発電所については、高浜の例のように遠隔の住民が仮処分を勝ち取っているという状況であるが、市長の原発に対する個人のお考え、賛成なのか反対なのか、ここは31km圏内だということもあるので、大きな問題であると思う。今の市長さんに今のことをお伺いするわけではあるが、個人の意見でも結構なので、どのようなお考えをお持ちか。伊太和里の湯は、我々の憩いの場としてずいぶん利用をしているが、お風呂に入ると色々な話を聞く。今度、指定管理者にかわるわけだが、そうなったらどうなっちゃうんだろうということ常連客の間で話が出ている。市外からの利用者はそういった懸念（話をしている内容）を聞いている。4月からかわるようだが、利用者の立場としては、ものすごく窓口もサービスも、よその温浴施設よりも良いと思っている。お湯に入っていて、こんないいところはない。また来てね。と市外の人にも言っている。指定管理者になると、職員など入れ替えがあると思う。なるべく今の人たちが、経営者がかわることによって、施設的环境がかわらないように、特段のご配慮をお願いしたい。</p>	<p>●私は温泉が好きなので、毎週行っていたが、温泉の中で、裸でいても声を掛けられると、なかなか休めないので、伊太和里の湯には4、5回しかこの2年の間には行っていない。川根温泉は裸になって湯船に入ったのは1、2回しかない。伊太和里の湯は、静岡ビル保全という会社に指定管理に出す。この会社は、県内をはじめ、県外でも大きな施設の管理を40、50と請け負っている。これは金額で入札したのではない。伊太和里の湯にもっとお客さんに来てもらうために、どういう提案ができますかという提案のコンペをして決めた。今以上のサービスができるということをお約束していただいて、指定管理者を選んだ。したがって、契約をしっかりとやるので、その契約に基づいて、前も良かったけど、指定管理者になってもよかったと言ってもらえるように、しっかりと私としては指定管理者を監督責任を持ってやっていく。そしてお声を届けてほしい。そのお声に対しては、私の方でお返事をする。そんな紙に書いていただいても構わないので「市長への手紙」と表書きに書いてくれれば、必ず私のところまで届く。それは全部私は読んで、毎日たくさん来るので、返事を書くのに時間はかかるが、住所、お名前が書かれているものにはお返事をするので、そんな形でもいいし、担当の観光課の職員を通してでも構わないので、もし何かあれば声を届けてほしい。あの温泉で一番儲かるのは、レストランだが、レストランは今までどおり伊太の皆さんにやってもらう。レストラン以外のところを指定管理で請け負ってもらうことになった。まさにサービスのところなので、是非、一緒に育てていただきたい。今の伊太和里の湯がとってもいいと褒めていただいたことはとってもうれしい。うちの職員が何より喜ぶと思う。</p> <p>●市民病院の地盤で不動沈下になったらどうするんだというお話については、実は日曜日のプレゼンでも不動沈下の問題について、どう対策をとるかということの提案がいくつもあがっていた。まさに専門の設計業者とゼネコンがやることなので、ここはそんなことが絶対起こらないようにしっかりとやっていく。</p> <p>●浜岡原発の話は、議会でも何度も御質問をいただいているが、私は再稼働を認める考えはない。一切再稼働は認めない。その理由は、福島と格段に違う条件が浜岡にはある。浜岡原発の31km圏内に92万人の人が住んでいるということ。東海道本線、空港、新東名、東名、新幹線といった、まさに日本の大動脈が走っていて、この大動脈に何かがあったら日本全体の経済が大打撃を受けて、</p>

		<p>それこそ福島復興のようなことができないほどのダメージを受けてしまう。そんなことは絶対あってはならない。島田市民の命を守るという意味では、10万人都市の島田の約9万人くらいがUPZ、31km圏内に住んでいる。この人たちが安全に避難できる避難計画はたてているが、車のない人たちにバスが手配できるのか、確実に避難させられるか。今の計画では、原発により近いところから避難することになっているので、御前崎市民が逃げて、牧之原市民が逃げて、吉田町民が逃げてから島田市民が逃げることになっている。そんなことができるわけもない。皆、北へ北へ島田のほうに逃げてくる。そういう様々な混乱を思うと、浜岡原子力発電所は様々な課題があるし、地下の活断層の問題もあるし、それらを抜きにしても、首長の立場として、いま、浜岡原子力発電所を再稼動するということはできないと思っている。</p>
9	<p>■私のところに、国民健康保険の約半年前の医療費のお知らせが来た。半年前の医療費のお知らせが今頃来てもあまり意味がないなあ。決まりがあるからたぶん出したのだろうと思うが、例えば年間一括して1月の末から2月のはじめ頃に出してもらえれば、これをもとに確定申告ができる。制度上できないのかもしれないが。それを少し考えてもらえれば、毎回毎回出しているでしょうから、年間10回くらい出していると思う。それが一回ですめば、ずいぶん切手代とかが安くなると思う。</p> <p>この前、防災講習会の通知も2通きた。地域防災リーダーという立場で1通。自主防災委員長で1通。普通の人間が地域防災リーダーになるわけがない。少し考えれば、こいつとこいつは同じ人間だから1通でいいやと普通は思うが、調べればたくさんあると思う。国際交流も同じ内容のものが2通来る。肩書きも何もない、同じ名前である。行政の無駄を減らすということは、こういう小さいことから順番にやっついていかないと、いつまでたっても行政改革はできないと思っている。そここのところをやっただけだとありがたい。</p>	<p>●国民健康保険の医療費の通知は私のところにも半年くらい経ってから届く。どこもみんなそうになっている。これは、間違いなく医療にかかりましたかという確認とこれだけあなたの医療費はかかっていますよという、両方の意味のお知らせがあると思うが、国民健康保険で74歳までの医療費は平成27年度で、島田市は65億円。75歳以上の後期高齢者の医療費は100億円。皆さん1割負担で、理学療法でマッサージしてもらおうと気持ちがいいから、あっちにも、こっちにもとか、そこだけではなくて、医療費が安くて診てもらえるのはすごくいい制度だが、市も県も国も財政が厳しい中で、医療費が占める割合がどんどん増えてきて、島田も年間、一般会計の3割くらいが扶助費といって、医療や介護や福祉のお金。平成28年度は、32.6%くらい、約10億円増えている。363億の一般会計予算をたてたが、その中の33%はそうしたお金となっている。医療費にどれだけかかっているかということと同時に、年間一括でやれば確定申告に使えるということは、私、今はじめてそういうこともできるかと思ったが、アイデアとしては素晴らしいと思うが、確か掛かった病院と医療の金額と全部、ご夫婦の場合、一人ずつ、それぞれ別々にそろえて持ってこないとならないので、確定申告に使えるかどうかはちょっと、そこは分からないなあと思う。同じ案内が2つも来るよという件については、国際交流協会は名簿が重複しているのかもしれないし、地域防災リーダーと自主防災委員長と両方というのは、地域防災リーダーは、全ての自主防災委員長がやっているわけではないので、たぶん別々に出しているのだと思うが、住所と名前を照合すれば同一人物と分かるので、行政の小さな無駄の一つ一つから、省く努力が必要だということはおっしゃるとおりだと思ふ。危機管理課の方にもまた話をしておく。</p>
10	<p>■市長から市民病院を造る話の中で、在宅看護の話があっ</p>	<p>●おっしゃるとおりで、高齢化してきた時に、在宅医療については、本当に一</p>

たが、島田市だけではなくて国が取り組む問題で、反対者が多いと聞いている。在宅になった時、誰が面倒を見るんだと。私が倒れた、妻が倒れた。長男は東京に行っている。どうやって看護するのか。国は簡単に在宅看護にしてやりなさいと。医療費が高いから。他に手はないのかなと思う。他にないというなら、皆で相談して在宅看護について町内会でできるのかを考えてみるとか。しかし、簡単に在宅看護ということで、入院から自宅に戻して、困ったときには救急医療でやるとか。ちょっと安易過ぎるのではないかという気がする。

人暮らしであつたら、いろんなサービスが色々受けられる。ヘルパーさんも来るし。看護師も来るし。一緒に暮らしている人がいると、日中仕事に出ている、使えるサービスは限られてくる。そうした矛盾というものが今、国に届きはじめています。高齢化していく中で、制度の狭間や矛盾、こういう課題が出てきたということについては、私も国のほうにお伝えをしているし、国もそこには気づきはじめています。この在宅医療というのは、行政も病院もそうなんだけれども、地域が支えるということが前提で、方針が決められている。島田も新総合事業というものを昨年の春から全国に先駆けてはじめた。県内では森町と伊豆市と島田市だけ。3つの自治体でも最新のことをしているのは島田市。この新総合事業というのは、これまで介護認定するのに、4週間くらい時間がかかった。今は20分でその結果を出せるような、ワンペーパーで、例えば一人でお金をおろせますかとか、買い物に一人で行ってますかとか、自分で食べるものを自分で作れますかとか、そういう質問だが、この問題が答えられないとこういう問題があるといったような判定の仕方をして、即日、生活支援というか、受けられるようになった。介護になる前の支援の段階で、支援を手厚くしてできるだけ介護にならないようにすることを目的としている。軽い介護の1、2の人は、支援の方に戻そうという政策でやった。ところがこの1年間、めざましい効果が表れて、要介護の方が要支援に戻る、要支援の方が介護の方に入っていないという意味で、いろんな実績があったので、平成28年度以降もしっかりと続けていくが、行政ではもう一歩進んだところではできない。それは、地域での見守り、地域での支えということがすごく大事で、昨年の夏もすごく暑くて、家の中にも熱中症になるというときがあつて、保健師たちにとにかく、一人暮らしの御高齢の方にしっかりとエアコンを使うようにと一生懸命指示を出した。ところが行ってみると、設定が暖房になっていたり、設定温度が32度になっていたり、中にはエアコンのスイッチを入れたらテレビがついたなんて人もいたりして、行政が見守るには限界がある。これも現実。地域の中で、そういう方たちに、一日一回でも目を掛けてくれる人、見守ってくださる人、こういう体制ができていくと、本当に暮らしやすい街になっていく。その地域の中の支援をどうするのかということが平成28年度の島田の課題。もちろん行政は地域に対していろんな支援はする。地域にそういう人材がいて、地域の高齢者がどこにいて、一人暮らしの方がどこにいて、みんなで目を掛けていこう、声を掛けていこう、そういうご町内でないとできない。それを、是非、向谷元町で実現していただけたらありがたいなと思う。平成28年度から、健康づくり課と長寿介護課との間の地域包括ケア推進室という組織をつくる。ここを中心に、在宅医療や要介護に入っていないようにすることを推進していく。保

<p>11</p>	<p>■市民病院で、今、産婦人科の医師が1人ということで、うちの娘が助産院に行っているが、救急の時に受け入れを頼む時に、焼津と藤枝は受け入れができないと言われたそう。静岡の済生会病院に決めてきたが、島田の対応はどうなっているのか教えてほしい。</p>	<p>健福祉センターの2階になる。</p> <p>●現在、島田市民病院の産婦人科は、常勤の医師は一人しかいない。後のスタッフは非常勤でよその病院から週一回とか週二回とか来てくださる先生方。月に何十人しか診れないという、そういった制限をかけながら入院の予約をとっているというのが現状。私も産婦人科の医師と小児科の医師はとにかく増やしたいということで、歩いているが、今、常勤で来てくれる先生方は少ないということが現実。救急車で来た患者さんを拒むということは、市民病院ではやっていない。ただ、その時に産婦人科の医師がいなければ外科の医師が担当するとかという形になるので、産婦人科にしっかりとコンタクトをとるということでは、済生会病院になったと思う。産婦人科医になるという人が少ない。理由は、訴えられるリスクが高いこと、24時間の勤務体制であることとなり手がなくて医師の不足が生じている。これから安心して子どもを産むためには、産婦人科医が少なくとも4人、5人いるという、周産期医療センターのようなものが、チームになって産科医がいる場所をつくっていかないと、産婦人科医が集まらないというのが現状となっている。これが、志太榛原の中でやれないかということの話を進めたいと思っている。それぞれの大学の学閥やらあって難しいところもある。島田に産婦人科の先生を増やすということは命題だと思っている。</p>
<p>12</p>	<p>■島田の農業農産品をもう少しアピールする宣伝する方向へ持っていけないかというふうに思う。農業のTPPで自由化と島田のほうにもその波は来ると思う。島田では神座のみかん、初倉でレタス、伊久身でしいたけ、金谷、川根でお茶、こういうものがある。これを島田市民はそれぞれ良さを知っていると思うが、島田で観光に訪れる方、こういう方にもっともっと宣伝をして、農産品の売り上げを上げる。こういうことはできないかと。JRの拠点駅とか、伊太和里の湯、川根温泉、お茶の郷、若しくは蓬萊橋、こういうところは県外の観光客が大勢来る。そのためには、そこでもっともっと宣伝をする。そういう方策をしてみたらと考えるが市の考えはどのようなものか。</p>	<p>●まさに島田の基幹産業であるお茶、農産品をもっとアピールするということは当然のことだと思うが、その一つの方策として、ふるさと納税の寄附金に、神座のみかんもしいたけもお茶もあげている。島田のふるさと納税の6割くらいは神座のみかん。10kgの箱詰めのみかんはダントツの人気で、神座のみかんは品切れとなっている。島田の農産品をお返しの品として使っている。ふるさと納税はいつまでもはやっている制度ではないと思うが、10,000円を寄附すると、その住所地で8,000円の税の控除が受けられ、島田市の場合だと、5,000円程度の返礼品、お礼の品を出している。要するに、寄附をされた方は3,000円の得になっている。この仕組みが今、はやっている要因。集まる市町は儲かるが、税控除されて税金の収入が減る市町もある。なので、できるだけよそから寄附を集めたいということで島田も取り組んでいる。島田は、昨年大井川マラソンの走る権利を出した。受付数日でいっぱいになってしまうので、申込み間に合わなかった人に、50,000円出したら走る権利を与えますと。50,000円払って、6,500円の参加費を払って、宿泊費、交通費も払っても走りたいという人がいて、135万円集った。それだけのお金を出しても、走りたい人はいる。今年マラソンだけではなく、島田の大祭があるので、さじき席でも作ろうかと検討しながらやっている。皆さんにも色々なお知恵があったらおかりしたい。</p>

		農産品のPRもしっかりやっていく。島田市緑茶化計画も島田は緑茶の街、お茶の街であることを市民のプライドにしていこうという事業であるので、よろしくお願ひしたい。
--	--	---

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

